



漫才ギャング

品川ヒロシ監督&佐藤隆太さんインタビュー

3月19日(土) ~ センチュリーシネマ

「キャストリングはスムーズに決まったんですか？」

品川 飛夫は、正直、悩みました。タレント名鑑見たりして。一本気でまじめな隆太君とあってからは早かったです。雄輔は仲がいいこともあり、出てほしいなあと思っていました。最初、雄輔は「俺がツッコミ？」って言っていましたが、終わってみるとやっぱり飛夫と龍平は隆太君と雄輔しかなかった。石原さとみさん演じる由美子は僕の理想の女性像。(宮川) 大輔さん、綾部、ロバートの秋山(竜次)、ミサイルマンの西代(洋)、千鳥の大悟は小説を書いているころから当て書きでした。



舞台シーンで笑い声は一切足していない。あれはリアルな笑いです(品川)

「飛夫の役を、漫才師に演じてもらおうとは思わなかったのですか？」

品川 本業が漫才師の人でやっちゃうとその人の漫才になっちゃうから、それはイヤだな、と。唯一、飛夫の相方、役者の綾部(祐二)だけが芸人の役をやっているんですけど、キャストリングの時は今ほど売れてなくて(笑)。まさか突然あんなこと(2010年、キングオブコント準優勝、M-1グランプリ第4位)になるとは思っていない。できれば公開後に売れてほしかった(笑)。

「舞台上に立って実際に漫才をやってみた感想は？」

佐藤 すごいドキドキでした。というのも、実際にお客さんに入ってもらってテストなしの一発本番だったんですよ。つまり、初めてお客さんの前でやったことがそのままスクリーンに映ってしまう。その緊張感は凄かったですね。でも、お客さんが笑ってくれた瞬間からスイッチが入って楽しめました。リハーサル、テストをやってから本番という方法もあったかもしれないんですが、それより2人が最初に舞台上のライブ感というか、お客さんと舞台上の2人のナマっぽい関係を大事にしたいという監督の思いが分かったので。監督に「大丈夫だ、楽しんでやってこい!」って背中を押されて。ホント師弟関係のようでした(笑)。

「漫才以外で大変だった点はありますか？」

佐藤 舞台の漫才以外も、常に漫才のテンポで会話が進んでいくので、気が抜けなかったですね。乗っているときの飛夫の会話はスピードがあって、リズムみたいなものを大事にしたかったので。僕にとって挑戦でしたけど、楽しい経験でした。僕と雄ちゃんのボケとツッコミは、舞台上で漫才やっているとき以外は逆。そのバランスも面白かったですね。

「漫才シーンの演出はどのように？」

品川 いろんなパターンでネタ合わせをしました。隆太君と僕でやったり、雄輔と僕でやったり。庄司(智春)を呼んでやって見てもらったり。本番当日までどんどんネタ合わせしました。



漫才では、監督とホント師弟関係のようでした(佐藤)

「激しいアクションシーンでこだわったことは？」

品川 「ドロップ」では、女性だったら目をそむけてしまうくらいのエグさを出そうと思ったんですけど、今回は映像的にかっこよく仕上げようと思った。音楽のPVとしても成立するくらいかっこいいものにしよう。そこが「ドロップ」とは大きく違うところですね。

「漫才、小説、映画を作ることの違いは？」

品川 僕にとっては、全てものをつくるということで、あまり違いがない。ただ、作ってからかえり(反応)までの時間がそれぞれ違うということです。映画は撮った後、編集して試写やって公開してジワジワかえりがある。小説なら、たとえば「新しい小説書いたから読んで」って渡して読み終わるまで待つ期間がありますね。漫才はダイレクトなんです。僕はものを作る作業が好き。だから料理を作るのも好きです。



夢が、自分を、人生を変えてくれる!

品川ヒロシ監督作品、待望の第2弾!



前作「ドロップ」でその才能と手腕が目玉された品川ヒロシの新作が、いよいよスクリーンに登場する。自身のベストセラー小説をもとに再び脚本、監督を手掛けた本作は、笑いはもちろんシリアスな人間ドラマと激しいアクションシーンが盛り込まれた張りのある青春エンターテインメント。出会いをきっかけに、厳しい業界で夢を求めて真剣勝負を挑む漫才師とその家族、友人たちの生きざまを、躍動感あふれる映像で描いていく。爆笑の中に骨太なメッセージを内包した注目作だ!



結成10年の売れない漫才コンビ「ブラックストーン」。ボケでネタ作り担当の飛夫は、相方の保から解散を告げられる。ヤケになり留置場に入れられた飛夫は、そこでドロップへでタトゥーだらけの龍平に出会う。初めは龍平の見た目にビビっていた飛夫だが、龍平にツッコミの才能があることに気づき、コンビを組むことに。目指すは、全国放送の「MANZAI ONE グランプリ」のチャンピオン。しかし、出場前に飛夫が何者かにさらわれてしまう。

STORY

監督:品川ヒロシ 出演:佐藤隆太、上地雄輔 2011/日本/137分
配給:角川映画 ©2011「漫才ギャング」製作委員会

SPECIAL INFO

SABOTEN 一夜限りの復活漫才LIVE



名古屋吉本栄3丁目劇場を基盤に人気を博した山浦ひさし&星野竜也による漫才コンビSABOTEN。センチュリーシネマリニューアルOPEN記念として一夜限りの再結成!

日時: 3月19日(土) 19:00開演(予定)
会場: センチュリーシネマ/センチュリー2
ゲスト: SABOTEN
参加方法: 当日10時より整理券配布、無料

